



全印刷HP



地域連合HP



連合神奈川HP



公務労協HP

夏号 四季

発行：小田原支部教宣部

2019.9.10

毎年恒例!! 第35回納涼祭開催

毎年恒例の小田原支部主催の第35回納涼祭を7月24日(水)に開催しました。天気心配される日々が続きましたが、当日は快晴となり、組合員・家族・地域住民など大勢の方々に参加していただき、楽しんでいただくことができました。年々猛暑が続いていたため、冷たい食べ物があれば喜んでいただけたらと思います。今年は冷やうどんを再び企画しました。当日も暑かったこともあり、参加していただいた大勢の方々に好評をいただきました。

納涼祭のメインイベントである第2部抽選会では、豪華な賞品を多数用意し、子供たちも当選発表が待ち遠しく、元氣いっぱい「欲しい!」と声を出していました。今年の抽選会も楽しんでいただきながら大盛況に終わりました。

参加された組合員の方々、模擬店運営の各サークルの方々、また事前準備から片付けまでご尽力頂いた方々、ご協力どうもありがとうございました。



被爆74周年原水禁 世界大会(広島・長崎)

8月4日(日)～9日(金)にかけて、神奈川平和運動センターの要請により被爆74周年原水禁世界大会に各2名(広島：渡邊書記長、勝呂財政部長、長崎：下川委員長、山口副委員長)で参加してきました。

両大会とも初日に世界大会開会総会、2日目に各種分科会、3日目には原爆投下の時刻に合わせた式典というスケジュールで、神奈川平和運動センターとともに参加し、支部ユースネットワーク作製による折鶴も平和公園等へ届けてきました。

広島・長崎を訪れると、とても大きな都市で、過去の悲惨な出来事が想像できないほどのきれいな街並みでした。しかし、記念式典で祈る方々や資料館で過去の生々しい写真等を見ると、今の街並みからはとても想像がつかない凄惨な歴史がそこにあり、当時の悲惨さを痛感するとともに、惨劇を繰り返してはならないと実感しました。

また、語り部の話を聞く機会があり「おかつぱの頭から流るる血しぶきに妹抱きて母は阿修羅に」「男女の区別さえできない人々が、衣類は焼けただれて裸同然。髪の毛も無く、目玉は飛び出て、唇も耳も引きちぎれたような人、顔面の皮膚も垂れ下がり、全身、血まみれの人」という惨状を聞き、正直からだが震えました。それとともに、この事実を風化させないことが重要であると再認識しました。私たち参加者ができることは、この体験を職場や家族、友人に伝え、日本から被爆体験の灯を消さないことが重要であり、この輪を広げていこうと思います。

貴重な体験に参加させていただき、ありがとうございました。

